



総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。
スポーツ振興くじについてはこちらから

[日本スポーツ振興センターHP] <http://www.jpnsport.go.jp/>

スポーツくじ



スポーツ振興くじ助成事業

特別企画

- ▶▶▶ SDGsの実現に向けて総合型地域スポーツクラブができること

特別企画 クラブ間交流を行っている市連絡協議会

- ▶▶▶ 上田市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会(長野県)

連載 学校運動部活動と連携するクラブ

- ▶▶▶ なかよしクラブ(愛知県)

助成金情報 ▶▶▶ 詳細

お知らせ ▶▶▶ 詳細

バックナンバー ▶▶▶ 詳細



公益財団法人

日本スポーツ協会

特別企画

SDGsの実現に向けて 総合型クラブにできること

現在、日本でも話題の一つとなっているのが「持続可能な開発目標(SDGs)」です。企業や個人でもすでに取り組みを行っているところは多いのではないのでしょうか。スポーツがSDGsに貢献できることは多く、国では地域や自治体の取組に大きな期待が寄せられています。

そこで今回は、SDGsの実現に向けて総合型クラブができることについて、岡山理科大学の林恒宏准教授より情報提供いただきます。

★SDGs(Sustainable Development Goals)とは

2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地域上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものです。(外務省HP: JAPAN SDGs Action Platformより抜粋)



1 スポーツSDGsとは

1.1 スポーツSDGsの定義

スポーツSDGsとは「スポーツ+SDGs」ですが、「+」の部分の解釈には、いくつか考えられます。ここでは筆者の二つの解釈を解説いたします。SDGs of SportとSDGs through Sportの二つです。一つ目の「SDGs of Sport」は、スポーツ組織やスポーツ活動自体のSDGs活動です。例えばスポーツ協会や競技団体、総合型クラブが取り組むSDGs活動であり、大会やイベントなどスポーツ活動自体によるSDGs活動です。二つ目の「SDGs through Sport」はスポーツとは直接関係のない組織が、スポーツ組織やスポーツ活動を通して行うSDGs活動です。例えばアパレル系のブランド企業が、スポーツ競技団体が行うスポーツ教室などの子どもたちの健全育成事業にスポンサーするなどです。

このように「主語が誰か？」によってスポーツSDGsの定義が異なります。

1.2 国際連合によるスポーツとSDGsに関する説明

国際連合（以下、「国連」という。）は広報センターのオフィシャルサイトにてスポーツとSDGsの関係について以下のように述べています。

スポーツは、平和と開発の目標達成に向けて前進するための費用効果的で柔軟なツールとなることが判明しています。2000年のMDGs※1発足以来、スポーツは8つの目標それぞれを強化するうえで、死活的に重要な役割を果たしてきましたが、この事実は、数多くの総会決議でも認識されました。スポーツが社会の進歩に果たす役割は、持続可能な開発のための2030アジェンダ宣言でも、次のように認識されています。

「スポーツもまた、持続可能な開発における重要な鍵となるものである。我々は、スポーツが寛容性と尊厳を促進することによる、開発および平和への寄与、また、健康、教育、社会包摂的目標への貢献と同様、女性や若者、個人やコミュニティの能力強化に寄与することを認識する。」

このように国連は、MDGsの流れを引き継ぐSDGsの17項目それぞれの達成に向けた課題に取り組む潜在的能力を備えた重要かつ強力なツールとして、スポーツがその役割を果たすことを期待しています。詳細は国際連合広報センターサイトをご覧ください。

<国際連合広報センターオフィシャルサイト>

https://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/18389/

※1 ミレニアム開発目標(Millennium Development Goals: MDGs)は、開発分野における国際社会共通の目標で、2000年9月にニューヨークで開催された国連ミレニアム・サミットで採択された国連ミレニアム宣言を基にまとめられました。MDGsは、極度の貧困と飢餓の撲滅など、2015年までに達成すべき8つの目標を掲げ、達成期限となる2015年までに一定の成果をあげました。その内容は後継となる持続可能な開発のための2030アジェンダ(2030アジェンダ)に引きつがれています。

1.3 スポーツSDGsと総合型クラブ

SDGsの実現に向けたスポーツへの期待については、これまで述べてきました。SDGsは国連サミットで定められた国際目標であることから国際協力や国際交流など国境を越えた取り組みが主であるかのように捉えられがちですが、そうではありません。我が国の国内においてもSDGsの17のゴールで解決すべき課題は多くあります。例えばゴール1「貧困をなくそう あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ」では、「ワーキングプアや国内の7人に1人の子どもが貧困状態にあるといわれている」などがあります。このように17のゴールは決して国際的な課題ではなく、我々の生活圏にも同様の課題が溢れています。これらの課題解決にスポーツが、また、総合型クラブがどのような役割を果たせるかが期待されているのです。

2 総合型クラブとSDGs

総合型クラブがSDGsに取り組むにはいくつかの方法があります。まずは総合型クラブの活動としては①スクール事業②サークル事業③イベント事業④その他の活動⑤クラブ運営(会議、事務局)などが挙げられます。これらの活動それぞれとSDGsのどのゴールとを結びつけるかを検討する必要があります。

例えば、クラブで行う子どもたち向けのサッカースクールですと、SDGsのゴールの内、目標3「すべての人に健康と福祉を」や目標4「質の高い教育をみんなに」などが関係してきます。また、女性のスポーツ機会を創出するためのイベントの場合ですと目標5「ジェンダー平等を実現しよう」が関係します。クラブの活動がどのSDGsのゴールと関係するのかを会員でディスカッションすることなどもSDGsへの理解を深める意味でも有効でしょう。

また、クラブとしてあえてSDGsに向けた活動を立ち上げようとするのではなく、既存の活動がすでにSDGsに向けた取り組みになっていることが多いと思われます。

3 総合型クラブがSDGsに取り組む意義

総合型クラブがSDGsに取り組む意義について二つ提案いたします。①価値の共通言語化(価値の見える化)②CSVの考え方です。①については、これまでの総合型クラブを含むスポーツ界は自分たちが取り組む活動の意義(価値)について様々発信してきました。子どもたちの健全育成や健康寿命の延伸、生きがいづくり、交流などでしょう。これらの活動の意義を、行政や企業、地域住民に理解してもらいやすくするためにも、社会に浸透してきたSDGsという切り口で自らが取り組む活動の価値を発信することができれば、協力や協賛を得やすくなります。総合型クラブが施設や資金など経営資源の調達をする意味でも、また、地域住民にクラブの存在意義を理解してもらいやすくなるためにも有効でしょう。

②についてはCSV(Creating Shared Value)という考え方に基づく取り組みです。SDGsの17のゴールは社会課題を示したのですが、それと同時にその社会課題を解決してほしいという「ニーズ」を示したものでもあります。この「ニーズ」を総合型クラブのみで解決しようとするのではなく、同じゴール解決を掲げる行政や企業、他の組織と連携して一緒にそのニーズにこたえていくサービスや商品などの価値を創出(共創)していくことをCSVといいます。Jリーグが取り組む「シャレン！(社会連携活動)」がその代表です。総合型クラブの活動にSDGsが組み込まれることで、ステークホルダー(利害関係者)との関係も深まり、より多くの価値を創出していくことにつながります。

①②以外にも、社会関係資本の創出などによる住みやすい街づくりへの貢献など様々な波及効果が考えられます。

<Jリーグ「シャレン！」オフィシャルサイト>

<https://www.jleague.jp/sharen/>

4 総合型クラブが取り組むSDGs(事例)

SDGsに取り組む総合型クラブの事例として、北海道のユルっとゆうばりスポーツクラブは、環境保全のため年に2回スウェーデン発祥のプロギング(ランニング & ゴミ拾い活動)を行っています。また、富山県の一般社団法人常願寺川公園スポーツクラブは、環境保全活動として古紙回収、環境美化、森林保全活動を実施しています。

この事例以外にも、すでに多くのクラブでSDGsに向けた取り組みを行っていると思われます。クラブとしてすでに行っている活動をSDGsという切り口(共通言語)で発信し、行政や企業、地域住民をさらに巻き込んで地域の課題解決が促進することにつながることを願ってやみません。

PLOGGING CHALLENGE IN YUBARI
 体を動かして健康に コミを拾って環境美化へ
 令和3年10月23日(土) 開催
 10:30~12:00(集合10:00) 雨天中止
 eco bag

プロギングとは
 スウェーデンで誕生したXTRISスポーツ、ジョギングと「Ploaka Up(拾う)」を合わせた造語である。内容はいたってシンプル。ゴミ袋を持って走り、ゴミを見つけたら拾うだけ。ゴミの重さで前トレ・エクササイズ効果があり、燃焼にもやさしく気持ちいいのできる取り組みである。

集合場所 ゆばり文化スポーツセンター	参加費 無料
参加条件 ①ランニングの部 不特定区域 夕陽斜まで往復約6km 定員人数 50名 ②ウォーキングの部 ご当地区域 常願寺川公園周辺コース約4km 定員人数 50名 ※ランニングは参加者全員が隠れずについているペースで行います。ウォーキングはマルチタックボールを持っての参加が可能です。	持ち物 ●動きやすく暖かい服装 ●替替え ●軍手 ●ゴミ袋 ●飲み物 ●マスク
参加特典 エコバック(ゴミ拾い用) 申込締切 10月6日(日)	注意事項 (1)当日は体温・健康状態の確認を行います。 (2)ゴミは軍手やグングを使って拾います。 (3)一歩の距離を確保しながら行きます。 ※ランニングは必ず参加者全員が隠れずについています。 ※当日体調がすぐれない方は、参加をご遠慮ください。
	問合せ ゆばり文化スポーツセンター 電話：56-6046 中島

プロギング チラシ
(ユルっとゆうばりスポーツクラブ)



古紙回収(常願寺川公園スポーツクラブ)

引用参考文献

神谷和義・林恒宏編著(2020)「スポーツSDGs概論」(学術研究出版)

国際連合広報センターオフィシャルサイト,

https://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/18389/

(2023年3月3日閲覧)

Jリーグ「シャレン！」オフィシャルサイト

<https://www.jleague.jp/sharen/>

(2023年3月3日閲覧)

林恒宏(はやし つねひろ)

岡山理科大学経営学部准教授。

静岡大学卒業後、(財)静岡県サッカー協会、NPO法人ピュアスポーツクラブ理事兼事務局長、埼玉県広域スポーツセンター専任指導員、(財)埼玉県体育協会クラブ育成アドバイザー、浦和レッズ、札幌国際大学、大阪成蹊大学、大正大学を経て、2022年度より現職。博士(創造都市)。近著に「スポーツSDGs概論」(2020)がある。



SDGsに関する過去の記事

・NPO法人見附市総合型地域スポーツクラブ

https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R3/MM156_mitsuke.PDF

・熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R3/MM156_scs.PDF

特別企画

クラブ間交流を行っている市連絡協議会

上田市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 ＜長野県上田市＞

総合型クラブがその地域に定着・浸透するためには、総合型クラブ単体の取り組みだけでなく、既に近隣で活動している他団体と相互扶助の関係を築くことが効果的です。

そこで今回は、クラブ間交流を行っている市連絡協議会について紹介します。

1 協議会概要

市内4クラブで構成し、事業を推進

上田市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会は、平成28年に上田市教育委員会スポーツ推進課から提案をいただき、市内4クラブの情報交換・交流・活動支援・財源確保・社会的認知の向上等を目的に設立準備を始め、平成29年5月に設立総会を行い発足となりました。

加盟クラブは、「NPO法人さなだスポーツクラブ」「NPO法人うえだ総合型地域スポーツクラブユーエスシー(クラブUSC)」「オヤジ改造倶楽部」「NPO法人うえだミックススポーツクラブ」(設立順)の4クラブです。

行政の協力を得て、各クラブが分担し活動

上田市スポーツ推進課が組織に入り、行政の協力を得ながら活動を行っております。連絡協議会事務局は、上田城跡公園第二体育館内に設け、クラブUSCの事務局を兼ねて業務を行っています。

事業については協議会主催事業と委託事業があり、各クラブが分担して担当し、協力して活動しています。徐々に指導者派遣依頼等が増えて協議会の財源確保ができ、それにより事業の展開を進めています。



2

4クラブが連携 地域住民ニーズに応じた活動を実施

上田市のスポーツ・健康・生きがいつくり・地域づくりに寄与することを目的とし、さらに「多世代」「多種目」「多志向」といった地域住民のニーズに応えられるよう、4つの総合型クラブが連携して活動しています。

以下が具体的な取り組みとなります。

① クラブ間の情報交換と交流

困りごとや検討事項があった場合は、SNS グループ(ライン)ですぐに情報共有し、ケースによっては会議を開いて情報交換をしています。

② 加盟クラブの活動支援

総合型クラブの活動を上田市民に認知してもらうために各クラブの知識・経験を持ち寄って、共同事業「あたま・からだ健幸フェア」「親子スポーツフェア」を企画・運営しています。今年度初開催の「親子スポーツフェア」では、スポンサー情報を持ち寄り、イベントに協賛してもらいました。

③ 活動財源の確保

共同イベントや講師依頼で得た収益の一部を連絡協議会の会計に入れ、活動資金としています。

④ 社会的認知の向上と広報活動

上田市広報誌に総合型クラブ周知のための情報(イベント・教室)を掲載しています。また、地元ケーブルテレビ網を活用し、クラブイベント等を放映していただいています。

⑤ 総合型クラブ以外の他団体との連携

スポーツ協会や企業共同体との連携協定「つなごう上田」を実現しました。具体的な連携内容の検討には至っていませんが、今後に期待しているところです。

⑥ その他、目的達成に必要な事業を行っています。

また、現段階では具体的な活動には至っていませんが、総合型クラブ育成に関する調査研究や総合型クラブの顕彰に関する研究に取り組むことも検討しています。

クラブの相違を乗り越え、相互扶助の関係築く

理念・目的は同じでも、地域性を加味した運営方法・経営方法に相違があり、取りまとめなどに苦労しました。例えば、地域性や参加している会員の年齢層の違い、会費設定の違いから目的は同じでも、共感する部分と同じではないこともあるので、協議会として意見がまとまりにくいことがありました。

協議会立ち上げ当初はそれぞれのクラブが個々で行政とつながっていた部分がありましたが、連絡協議会を立ち上げたことにより、行政との連絡調整という要素も加わり、クラブのみならず行政担当者も一緒にスポーツ振興、健康づくりを推進しているという達成感を共有できるようになりました。現在も、行政担当者を交えた会議を行い、相互扶助の関係を築いています。

★クラブ連携の活動事例★

【あたま・からだ健幸フェア】

上田市健康推進課の事業で「あたま・からだ元気体操」があります。6～10月まで毎週土曜日の朝、市民の健康維持増進のために開催し、総合型地域スポーツクラブが委託されて指導しています。この事業の発展的な形として連絡協議会企画の「あたまからだ健幸フェア」をアリオ上田のイベント広場で実施し、ラジオ体操、脳トレや普段でも取り入れられるお手軽体操、信濃の国上田健幸体操（ご当地オリジナル体操）を4クラブが分担して指導しています。それぞれのクラブの指導者の様子を見ることで、各クラブ相互で学ぶ機会にもなっています。募集は上田市広報誌等で行い集客しています。

参加者は50名程度。買い物客も参加することができるので、総合型の広報活動にもなっています。今後はアリオ上田のみならず、イオン等のショッピングモールでも開催を予定しています。



行政担当者の感想

上田市で毎週土曜日に個々の各総合型地域スポーツクラブにお願いしている「あたま・からだ元気体操」の発展的な形として、また上田市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の企画として「あたま・からだ健幸フェア」を実施していただきました。今後も民間・行政と力を合わせて上田市民の健康づくりに努めていければと思います。

（上田市役所 健康推進課 田端）

【アリオ上田モールウォーキング】

当初、クラブUSCにアリオ上田販売促進の担当者から依頼があり、連絡協議会として3クラブが交代で担当することにしました。

「アリオ上田モールウォーキング教室」では、イベント広場でウォーキングの講習をしてから店内を歩きます。指導はさなだSC、クラブUSC、ミックSCで行っています。オヤジ改造倶楽部は指導をしません、常に補助に入っています。1年開催したことでアリオ上田店内に中高年層の集客が増えた成果が認められ、有償で指導を行うことになりました。この事業で得た謝金は、一定額を連絡協議会に入れ、残りを3クラブに分配しています。



「アリオ上田モールウォーキング教室」

【親子スポーツフェア】

生活様式の変化により、子ども達の体力低下が懸念されている中で、連絡協議会事業として、子ども達に身体を動かすことの楽しさを知ってもらうために何かできないか。との思いからこのイベントを企画しました。会場の確保と広報は上田市教育委員会スポーツ推進課が受け持ち、内容は休日に親子で楽しめるメニューを検討し、各クラブでブースを担当して開催しました。（サーキット遊び、ボール遊び、けん玉、チアリーディング、バランスボール、走運動、ストラックアウトなど）

約120名の親子に参加していただき、第1回目のイベントとしては大成功を収める事ができました。



行政担当者の感想

「親子スポーツフェア」は、「スポーツを通じて親子でふれ合い、カラダを動かす楽しさを感じてもらおう」ことを目的とし、令和4年度に初めて開催しました。だれもが、いつまでもスポーツに親しむことができるよう、今後もこのようなイベントを継続していきたいと思えます。

（上田市役所 スポーツ推進課 田中）

3

市と民間企業が連携協定→ 4クラブの活動が推進→地域貢献

上田市とイトーヨーカ堂、セブン&アイ・クリエイトリック、セブン-イレブン・ジャパンとの間で、令和元年に地域活性化包括連携協定を締結しました。これにより、上田市から認定されている総合型地域スポーツクラブも、緊密な相互連携と協働による活動が推進できるようになり、市民サービスの向上、地域貢献につながっています。

★地域活性化包括連携協定★

① 目的

上田市とイトーヨーカ堂、セブン&アイ・クリエイトリック、セブン-イレブン・ジャパンは、緊密な相互連携と協働による活動を推進することにより、上田市のより一層の活性化および市民サービスの向上を図ることを目的とします。

② 連携事項

- (1) 地産地消と市産品の販路拡大に関すること
- (2) シティプロモーションに関すること
- (3) 地域や暮らしの安全・安心に関すること
- (4) 高齢者・障がい者の支援に関すること
- (5) 子ども・青少年の育成に関すること
- (6) 食育・健康増進に関すること
- (7) 環境保全・リサイクルに関すること
- (8) 地域防災・災害対策に関すること
- (9) 地域の活性化、市民サービスの向上に関すること
- (10) その他、四者の協議により決定した事項に関すること

③ 協定締結による活動効果

- ・市民と直接ふれあい、顔の見える活動ができている
- ・市民の健康増進に寄与している。
- ・総合型の活動を広く周知できている

クラブ認知度が向上し会員増 4クラブ結集で相乗効果も

連携事項の「食育・健康増進に関すること」で、健康推進課とイトーヨーカ堂、セブン&アイ・クリエイトリンクと連絡協議会が連携・協働し、「アリオ上田モールウォーキング」、「あたま・からだ健幸フェア」をアリオ上田のイベント会場等をお借りして行っています。

この取り組みをしたことで、上田市民に総合型地域スポーツクラブの認知度が上がり、各クラブの会員増につながっています。

今後もたくさんの連携活動を継続しながら、コンテンツを上質なものに改善し、今以上に認知度を上げていきたいと考えております。

4クラブとSNS等でつながり、常に情報を提供し合っていることで、旬な情報を得ることができるとともに、新しい刺激がもらえるという効果も生まれています。

大きな事業を展開するには、個々のクラブで活動するより、4クラブが結集することで相乗効果を生み出すことができます。

4 地元企業との連携活動を推進し財源確保を

色々な分野の皆様と連携し、それぞれ個性を出し合いながら、地域の皆様にいつまでも、豊かなスポーツライフを送っていただけるような活動を展開していきます。

活動の広報と財源確保のためにも、地元企業と連携した活動ができるように企業に働きかけていきたいと思っております。

総合型SC周知に向け、協議会主催の企画を立案

今後は、もっと広く総合型地域スポーツクラブを周知してもらうために、協議会主催のイベントや講座を企画することが必要となります。さらに、協議会加入クラブの活動周知のためにも、他クラブ会員向けの出前講座や指導者交換、クラブ対抗運動会などを実施していきたいと考えています。

(上田市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会事務局)

協議会プロフィール

設立年月日 平成29年6月1日

所在地 長野県上田市常磐城1-1-30 上田城跡公園第二体育館内

加盟クラブ NPO法人 さなだスポーツクラブ
NPO法人 クラブUSC
NPO法人 うえだミックススポーツクラブ
オヤジ改造倶楽部

特徴 行政や企業と連携をしながら、それぞれのクラブの特色を活かしスポーツ・健康増進事業を展開しています。

連絡先 〒 386-0027 長野県上田市常磐城1-1-30 上田城跡公園第二体育館内
TEL / FAX 0268-26-5320
E-Mail usc@theia.ocn.ne.jp

連載

学校運動部活動と連携するクラブ

総合型地域スポーツクラブ なかよしクラブ ＜愛知県みよし市＞

学校運動部活動をめぐっては、少子化による生徒の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足等により、生徒のニーズに応じた部活動自体が成り立たなくなる現状があります。

スポーツ庁および文化庁が策定した「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン（令和4年12月）」において地域クラブ活動と学校運動部活動との連携が示されています。

そこで今回は、学校運動部活動と連携する総合型クラブの取り組みを紹介します。

1 クラブ概要

会員数は年々増加 現在は約1000人

なかよしクラブは、スポーツ活動を通じた、会員の健全な心身の育成、地域の教育力の向上、青少年健全育成、地域住民の生涯スポーツの推進を目的として、平成16年6月、みよし市初の総合型地域スポーツクラブとして設立されました。

みよし市は、「きたよし地区」（北部地域）、「みなよし地区」（南部地域）、「なかよし地区」（中心部）の3地域に分かれており、各地区に総合型地域スポーツクラブが設置されています。ちなみに、当クラブは「なかよし地区」に属していることから、なかよしクラブと名付けました。おかげさまで年々会員数が増加し、会員数は約1000名となりました。

助成金受けずに毎年積立金に 市補助金を事務員人件費に活用

幸いなことにクラブ設立以来、一度もtoto等の助成金を受けることなく、毎年積立金を積み上げることができています。財源の中には、みよし市からの補助金があり、事務員のパート代として活用しているため、クラブとしては非常に助かっています。この補助金は当クラブだけでなく、みよし市内の他の2クラブにも支給されています。



スイミングスクールと連携した「小学生の水泳教室」が人気

当クラブで最も人気のある教室として、小学生の水泳教室があります。この教室はスイミングスクールと連携実施しており、安価な金額でスイミングスクールの指導者の指導が受けられる教室となっています。内容はクロールのみのため、クラブは安価に水泳のプログラムが提供できます。スイミングスクールは、クロールを習いたい初心者の受講者獲得についてはクラブに任せ、クロール以外の泳法を習いたい子どもに関しては、スイミングスクールを紹介してもらえという、双方にメリットのある仕組みとなっています。会員の方からも安価にスイミングが習えると好評を得ており、財源の確保にも役立っています。



水泳教室

2 利便性高い中学校を拠点に部活動と連携

中学校内にクラブハウス 学校側との交渉もスムーズ

なかよしクラブ事務局は、三好中学校北校舎2階に置かれており、学校そして先生方や生徒の皆さん、保護者の方にも大変親しんでいただける環境にあります。三好中学校に設置が決まった経緯は、中学校内の教室に余裕があったこと、中学校という地域の方々に認知されている場所であり、さらに防犯の観点からも適しているとの考えから、設置が決まったと聞いています。中学校内にクラブハウスがあることで、地域住民からの認知や理解が得られやすく、学校側とのやり取りも非常にやりやすいです。

吹奏楽部とソフトテニス部が団体会員

部活動連携については、吹奏楽部とソフトテニス部が団体会員としてクラブに入っています。卓球では、クラブの教室に卓球部の生徒が参加できるようになっています。吹奏楽部はもともと他の施設を借りて練習していましたが、当時の顧問の先生がクラブと学校に掛け合い、なかよしクラブならということ鍵を貸してくれることになりました。それにより、施設を借りるお金もかからず、楽器も移動させなくてもよくなりました。

地域移行に欠かせない保護者の協力

冬季は16時で下校となり練習時間が確保できないことから、保護者が監督となり、鍵当番を行うことでクラブとして活動しています。保護者は鍵の管理の他、安全管理とケガ等があった場合にクラブマネージャーに緊急連絡をする保安要員の役割を担っています。このように保護者に安全管理および鍵当番について協力してもらうことで、現在検討されている部活動の地域移行に対応できるのではないかと考えています。



吹奏楽部



ソフトテニス部

顧問異動時の対応が検討課題

運動部活動との連携の課題についてですが、以前、中学校のある種目の顧問から「未経験なので専門の指導者を派遣してほしい」とクラブに依頼があり、指導者を派遣しました。ところが、年度が変わり顧問が経験者に代わったら、「クラブからの指導者は必要ない」と言われ、クラブとして大変困った事例がありました。クラブとしては学校に協力したいということで指導者をお願いし、指導者の方もこれからというところで辞めざるをえなくなってしまうことがあります。現時点では指導者派遣は行っていないのですが、今後もし行うのであれば、この点について初めの段階で協議しておくことが必要だと感じています。

部活動とは別の教室では元トップアスリートが指導

現時点ではクラブの活動での指導者謝金と、現在検討している運動部活動の地域移行での指導者謝金とに違いがあり、財源をどのように確保するかが懸念事項となっています。

土曜日の午後と日曜日の午前には、ソフトテニスの世界大会に出場された方に指導をお願いし、部活動とは別で教室を開催しております。このように、クラブでの指導者は種目によっては地元企業の実業団に所属していた元トップアスリートをお願いしています。元日本代表やトップアスリートから指導を受けられる機会は貴重であり、子どもたちの成長にもつながっていると思います。なお、こうした指導者にはクラブの役員にもなってもらっています。

会費は高校生以上2000円、中学生以下が1000円となっており、各講座にそれぞれ参加料が必要となります。参加料については種目ごとに異なり、必要な経費に応じて設定されています。



ソフトテニス教室



サッカー教室

3 部活動の地域移行で求められる 総合型クラブの役割は

学校と指導者の間を取り持つのがクラブの役割

専門の指導者に指導してもらえることから、保護者からは信頼を得ていると感じています。運動部活動の地域移行については、クラブが学校側と指導者との間に立つ中間管理職的な役割が求められると感じています。学校側が指導者を求めている場合、指導者にふさわしい方をクラブとして推薦する必要があるのではないのでしょうか。現在みよし市では、日本スポーツ協会公認指導者の活用を検討しており、資格を持つ指導者に中学生年代への指導方法について研修を受けてもらうことを検討しているようです。

顧問が未経験者のケースこそ総合型クラブの出番

部活動の現状を見ますと、先生がまったく経験のない部活動の顧問になってしまうケースもありえます。そんな時に総合型地域スポーツクラブが少しでも何か補助できるような体制を、無理のない範囲で整える必要性も感じます。クラブが部活動とは別に補助することで、顧問の方が交代で休息を取れば、少しは多忙化の解消になるのではないかと思います。

地域移行推進に向け、照明の設置を市に要望

施設面での課題として、現状グラウンドに照明がついていないので、照明の設置を市に要望しています。照明が設置されれば、夜間のグラウンドでの活動が可能となるため、地域移行においても活用できると考えています。

市と協議を重ね、地域移行に協力

現在は、部活動の地域移行について週に1度のペースで市の担当部署と話し合いを進めているところです。地域に根差したクラブとして、地域移行に協力していきたいと考えていますので、これまでの経験を生かして今後も活動していきたいです。

4 今後の地域移行具体策を検討一 市の部活動改革検討委

みよし市では、部活動改革検討委員会が設置されており、小中学校の先生、教育委員会、市内総合型地域スポーツクラブで構成されています。まだ具体的な施策は検討中ですが、今後、地域活動を主体に子どもたちの活動の場をつくっていかうとしております。

クラブ卒業生が活動支援→人材の好循環

なかよしクラブが設立されて20年が経過し、なかよしクラブで活動をしていた子どもたちが大人になり、クラブを支えてくれる存在となっています。このような人材を活用しながら今後も活動をしていきたいと考えております。

(総合型地域スポーツクラブ なかよしクラブ クラブマネジャー 出原 裕仁)

クラブプロフィール

設立年月日 平成16年6月19日

所在地 愛知県みよし市

運営 会員数約1000名(令和5年3月現在)、予算規模1千万円(令和4年度)

連絡先 〒470-0224 愛知県みよし市三好町宮ノ越42

TEL / FAX 0561-34-1771

URL [http:// www.hm10.aitai.ne.jp/~nkysclub/](http://www.hm10.aitai.ne.jp/~nkysclub/)

E-Mail nakayoshi_c2004@yahoo.co.jp





助成金情報

ヨネックススポーツ振興財団 2023年度助成金

[実施団体] (公財)ヨネックススポーツ振興財団

ジュニアスポーツ振興助成事業(全スポーツ競技)

全てのスポーツ競技において、ジュニアスポーツの振興に関する事業を積極的に行い、奨励し、または自ら行い、かつ当該団体としての活動を実施している団体を対象とします。

[申込期間]

後期	対象期間:	2023年10月1日～2024年3月31日の事業
	Web申請開始:	2023年4月3日10:00
	一次締め切り:	2023年5月15日17:00
	最終締め切り:	2023年6月20日17:00
	審査結果通知:	2023年9月1日頃(予定)

交付申請要領をご確認いただき、助成金交付申請書等を提出してください。

<http://www.yonexsports-f.or.jp/joseikin.html>





お知らせ

日本スポーツ協会情報

日本スポーツマスターズ2023福井大会のスポーツボランティア募集開始

今年8～9月に福井県で開催される「日本スポーツマスターズ2023福井大会」のスポーツボランティアの募集を開始いたしました。

かつてオリンピックや全日本の選手として活躍したトップアスリートと各地域で日々練習を重ねてきた選手が同じ舞台上で日本一をかけて戦うことができる大会を、ボランティアとして一緒に盛り上げていただける方のご応募をお待ちしております。

お申込み方法の詳細については、福井県のホームページをご覧ください。

https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/013710/masters_volunteer.html

- **開催競技**

水泳、サッカー、テニス、バレーボール、バスケットボール、自転車競技、ソフトテニス、軟式野球、ソフトボール、バドミントン、空手道、ボウリング、ゴルフ(13競技)

- **日程・会場等**

令和5(2023)年9月15日(金)～19日(火)

※会期前競技

水泳競技:8月26日(土)～27日(日)

空手道競技:9月2日(土)～4日(月)

ゴルフ競技:9月6日(水)～8日(金)

自転車競技:9月8日(金)～10日(日)

- **募集期間**

令和5年2月15日(水)～令和5年5月31日(水)



※日本スポーツマスターズ2022岩手大会(前回大会)ボランティアの様子



スポーツはもっとオモシロイ！「JAPAN GAMES 有明パーク」開催

当協会では、令和5(2023)年3月24日(金)～3月25日(土)に、2024年から始動する「JAPAN GAMES」の理念を体験・体感できるイベント「JAPAN GAMES 有明パーク」を開催します。

遊び感覚でスポーツを体験できるプレーエリア、フードエリア、職業体験を通して「JAPAN GAMES」を体感してみませんか？

たくさんの方のご来場をお待ちしております！

日時:3月24日(金)・25日(土)10:00～

場所:有明ガーデン スポーツエンターテイメント広場

その他の詳細はこちらから

<https://www.japan-sports.or.jp/news/tabid92.html?itemid=4742>





ワールドマスターズゲームズ2027関西 / JAPAN

大会開催方針決定！

ワールドマスターズゲームズ(WMG)関西大会は、新型コロナウイルスの影響により延期していましたが、この度新たな開催方針を決定しました。「ワールドマスターズゲームズ」は国際的な生涯スポーツ大会で、参加資格は概ね30歳以上の方であればどなたでも参加が可能。予選もなく世界中のトップアスリートやスポーツ愛好家と一緒に競技できるチャンスがあります。

また、競技種目も、皆さんに参加いただきやすいように「35競技59種目」を準備していますので、是非あなたのお気に入りの種目を選んで参加してみませんか。

今後も定期的に開催情報をお知らせしますので、大会の開催まで楽しみにお待ちください。



大会開催方針の概要

- | | |
|-----------|---|
| 1. 大会名 | ワールドマスターズゲームズ2027関西 |
| 2. 開催期間 | 2027年5月14日(金)～30日(日)(17日間) |
| 3. 開催競技 | 公式競技 35競技59種目、 |
| 4. 開催場所 | 福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、徳島県、京都市、大阪市、堺市、神戸市の13府県政令市 |
| 5. 目標参加者数 | 国内 30,000人、海外 20,000人 |
| 6. 主催 | 公益財団法人ワールドマスターズゲームズ2021関西組織委員会
開催府県政令市実行委員会及び開催市町実行委員会 |
| 7. 共催 | 公益財団法人日本スポーツ協会
公益財団法人日本パラスポーツ協会 |
| 8. 後援 | スポーツ庁 |



チラシ図柄



ポスター図柄

スポーツ庁からのお知らせ



企画書募集！誰もが気軽にスポーツに親しめる場づくり総合推進事業 (学校体育施設の有効活用推進事業)公募開始

スポーツ庁では、スポーツ施設の約6割を占める学校体育施設について、地域スポーツの場としての有効活用を推進するため、持続可能な仕組みのモデル事例を実証実験を通じて構築する委託事業を令和2年度より実施しており、令和5年度についても公募を開始しました！

令和5年度は、3つの重点テーマに沿った企画を募集しております。ご関心のある者は以下「公募概要」及びスポーツ庁HPをご確認のうえ、奮って応募ください！

【公募概要】

1. 事業名：令和5年度「誰もが気軽にスポーツに親しめる場づくり総合推進事業(学校体育施設の有効活用推進事業)」
2. 事業の内容：
「学校体育施設の有効活用に関する手引き」を踏まえ、地方公共団体のスポーツ担当部局や教育委員会、学校、スポーツ団体、地域団体、民間企業等の関係者が連携して学校体育施設を地域スポーツの場として有効活用する仕組みについて、一定期間の試行等を行い、効果、課題、実現可能性、収益性等を検証する。
3. テーマ：次の3つのうち少なくとも1つを含むものとする。
 - ① 幅広いサービスを提供できるような環境づくり
 - ② 子どもたちが気軽にボール遊び等ができる場づくり
 - ③ 障害者も気軽にスポーツができる環境・仕組みを構築する取組
4. 委託先：地方公共団体及び法人格を有する団体
5. 成果のとりまとめ：
事業の成果を報告書としてとりまとめ、後日スポーツ庁HPに掲載するほか、令和6年2月上旬頃に開催予定の委託事業成果報告会での成果報告も併せて行う。
6. 応募締め切り：令和5年4月7日(金)17時まで

※詳細は以下をご確認ください。

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/boshu/detail/jsa_00198.html

